



1873→2024

たすけあい かたりあい わかりあい しんじあい

高鷲小学校だより

令和6年度 10月号

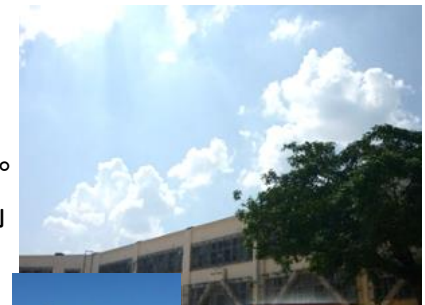
令和6年10月1日
羽曳野市立高鷲小学校
発行：校長 小島 博之

高鷲っ子の暑さ対策と居場所

高鷲っ子と一緒に「あの雲すごい～」と眺めながら、「1か月前の空やなあ」と玄関でつぶやいていました。2学期早々一旦秋の気配がすぐにぶり返し本当に暑かった9月。日々刻々変化する空のアートを楽しみつつ「今日もオレンジ旗なん？」と残念がる高鷲っ子たち。暑さ指数が「危険」(WBGT31以上)になると玄関に「オレンジ旗」が掲げられ、屋外での運動は中止に。そんな中、高鷲っ子は工夫して「外でできる・中でできる」遊びを考え、安全に過ごしています。

そんな高鷲っ子の居場所の1つにボランティアルームがあります。私が前に高鷲小学校にいた20年前、当時の校長先生や地域のボランティアの方々が開室してくれました。休み時間に昔遊び・工作・将棋などいろいろ教えていただき、わいわいにぎわっていましたが、感染症対策で数年休止され、ようやく今年から再開していただくことになりました。9月12日は猛暑のち夕立。休み時間のボランティアルームに次々訪れる高鷲っ子たち。思い思いに自分のしたい遊びに興じながらも、教え合ったり譲り合ったり、帰りには「ありがとうございました」とお礼を述べたり、とても良い時間が過ごせました。

ボランティアのみなさまとお話していると「私らがここで楽しませてもらってますよ」と、高鷲っ子との毎日の出会いをととても喜んでおられました。授業以外にも、大切なことや人の温かさを学びながら、世代を超えて高鷲の人がつながるって、素敵ですね。



◆「たかわし」を大切に～小さな【かたりあい】の大きなパワー

9月6日の午後。運動会に向けて運動場整地作業をしている先生の横を通る高鷲っ子たちが「なにしてるの」と聞きながら、次々と「がんばれ～」の応援の声に。汗だくでへとへと先生たちも高鷲っ子の応援パワーでみんな頑張れました。

9月11日の下校時。通りがかりの5年生が「校長先生ミストもう一回出して」とリクエスト。翌日にミストを再設置すると大喜びで水浴びを楽しむ小さな高鷲っ子たちの姿のむこうから、「ありがとう～」と手を振って来たのは前日リクエストした子。「あなたの声でみんなが涼しいよ」と思いを込めて手を振り返りました。

9月12日の休み時間。廊下を通りがかった1年生が校長室を覗き込んでひとこと「校長先生、休み時間したら」。粹な一言に思わずパソコンの手が止まり、ほっこりしました。

これが【かたりあい】パワーでしょうか。高鷲っ子すごいです。



◆10月行事予定(11月主なもの)は裏面に掲載しています。ご確認よろしくお願ひします。

2学期早々の夏休みの作品展と、フリー参観へのご来校ありがとうございました。たくさんの方々に参観いただき、高鷲っ子の力作や頑張る姿を見ていただくとともに、校内で私の姿を見て多くのご挨拶や「【高鷲小学校だより】いつも楽しみにしています」と嬉しいお声がけもいただきました。

10月13日(予備15日)はいよいよ運動会です。本番に向けて各学年とも練習たけなわで、高学年の係活動も本格的です。先日お知らせしました通り、今年度からプログラムや参観のあり方を見直し、持続可能な新しい運動会をつくっていきますので、あらためてみなさまのご協力よろしくお願ひいたします。なお代休は10月18日(金)です。

「〇〇の秋」その1～芸術と食～「これつくった人すごいわ」

8月28・29・30日には夏休み作品展。体育館に入った途端、高鷲っ子の力作が並ぶ光景に圧倒されました。世界遺産登録5周年の羽曳野にちなんだ古墳グッズ、からくりが楽しい工作、味わい深い絵画や書、今すぐ使いたくなる生活用品、思わずうなってしまうアカデミックな研究・・・脱帽です。そんな力作をお互いに鑑賞し「2年生でこんな絵かけるんすごいわ～」「これ作った人すごいわ～」と、高鷲っ子たちが見入っていました。

この夏の終わりごろから「コメがない～」状況を受け、高鷲っ子にとっても「近所のスーパーにお米が全然売ってへん」「〇〇(店名)に行ったらあったよ」と自分事でした。内心2学期の給食は大丈夫かなと心配していましたが、9月2日の給食のカレーにはちゃんと米飯が出てきて、高鷲っ子から「ごはんおいしいわ～」「給食センター頑張ってくれたんやわ」と歓喜の声上がり、普段残ることの多い米飯の完食もありました。

9月18日には、はびきの農家の煮込み会「あめんぼいちじくプロジェクト」から、地域学習の一環として、3年生にイチジクの贈呈がありました。いろんな人の手と思いが込められた立派なイチジクを手し、「いちじく初めて」という子もいたり、「ジャムにしたらおいしいよ」「スライスにしてサラダにする」などグルメな声もあり、地域の特産品で盛り上がりしました。

私たちの周りにはたくさんの「もの」がありますが、それをつくってくれる人が必ずいます。その人のことを思いながら、感謝して使ったり、いただいたり(食べること)できる、そんな機会になればいいですね。

